

川内原子力発電所1, 2号炉 運転期間延長認可申請に係るヒアリング  
コメント反映整理表<耐震安全性評価>

資料 1

2023年8月22日 九州電力㈱

No	対象号機	日付	資料名	該当ページ	コメント内容	コメント対応	回答日	完了日
1	1/2号機	2月2日	第1回審査会合資料 運転期間延長認可申請の概要	—	耐震安全性評価に適用する基準地震動について震源を特定しない地震動(標準応答スペクトルによるSs-3)の扱いを含めて提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-1のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
2	1号機	2月2日	第1回審査会合資料 運転期間延長認可申請の概要	—	30年目評価以降に実施した主な改善の内、主給水配管取替工事の具体的内容を提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-2のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
3	1/2号機	2月2日	第1回審査会合資料 運転期間延長認可申請の概要	68	PLM耐震安全性評価上の最小厚さの定義を補足説明資料に提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-3のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
4	1/2号機	2月2日	劣化状況評価書 別冊	—	運転開始後30年での高経年化技術評価(耐震安全性評価)との相違点を整理し提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-4のとおり。 (「添付-2 川内2号炉 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較」を追加。)	2023.04.21 (2023.5.11)	2023.5.16
5	1号機	2月2日	耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	—	主蒸気系統配管及び主給水系統配管の流れ加速型腐食に対する耐震安全性評価(疲労累積係数等)について、運転開始後30年での評価との相違の理由(補強/取替工事での形状、材種の変更を含む)を具体的に提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-5のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
6	1号機	2月2日	劣化状況評価書 別冊 機械設備 耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	3-5-36 別紙12	蒸気発生器ブローダウン系統配管の流れ加速型腐食に対する耐震安全性評価(疲労累積係数等)について、一次+二次応力比が最大となる評価点、疲労累積係数が最大となる評価点(通常運転時、地震時)の位置関係を具体的に提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-6のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
7	2号機	2月2日	劣化状況評価書 別冊 機械設備 耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	3-5-36 別紙12	蒸気発生器ブローダウン系統配管の流れ加速型腐食に対する耐震安全性評価(疲労累積係数等)について、運転開始後30年での評価との相違の理由(補強/取替工事での形状、材種の変更を含む)を具体的に提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-7のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
8	1号機	2月2日	耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	別紙4	主蒸気系統配管貫通部の疲労割れに対する耐震安全性評価(疲労累積係数等)について、運転開始後30年での評価との相違の理由(補強/取替工事での形状、材種の変更を含む)を具体的に提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-8のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
9	1号機	2月2日	耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	別紙5	アンカーサポート取付部(余熱除去系統配管)の疲労割れに関する耐震安全性評価(疲労累積係数等)について、運転開始後30年での評価との相違の理由(補強/取替工事での形状、材種の変更を含む)を具体的に提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-9のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
10	1/2号機	2月9日	劣化状況評価書 別冊 機械設備 機械設備(基礎ボルト)	25~27	9 基礎ボルトの表2.2-2のメカニカルアンカと表2.2-3のケミカルアンカに想定される経年劣化事象の表中の材料について、運転開始後30年での評価との相違の理由(該当する機器名を含む)を具体的に説明すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-10のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
11	1/2号機	2月9日	耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	別紙4	表4-2に記載される格納容器最高使用圧力及び格納容器最高使用温度について、関係性を具体的に提示すること。また、評価温度における縦弾性係数について、格納容器最高使用温度との関係性を具体的に提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-11のとおり。	2023.04.21	2023.5.16
12	1/2号機	2月9日	耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	別紙2	参照する規格の名称を確認すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-12のとおり。	2023.04.21	2023.5.16

川内原子力発電所1, 2号炉 運転期間延長認可申請に係るヒアリング  
コメント反映整理表<耐震安全性評価>

2023年8月22日 九州電力㈱

No	対象号機	日付	資料名	該当ページ	コメント内容	コメント対応	回答日	完了日
13	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－2	—	主給水配管取替工事における工事計画の認可番号及び工事名称を記載すること。	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－2のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
14	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－2	—	主給水配管取替工事にてS80からS120に配管の内径及び厚さを変更した理由	曲がり部を施工性の観点からエルボ管に変更したことにより、曲げ半径が小さくなったことから応力係数が増加したため、厚肉(sch80⇒sch120)へと変更した。	2023.6.15	2023.6.15
15	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－2	—	添付資料－1～添付資料－4の図に工事範囲が分かるように示すこと。	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－2のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
16	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－4	—	PLM30とPLM40ではそれぞれどのような地震動を用いて評価したのか記載すること。	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－4のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
17	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－4	—	PLM30とPLM40の差異は応力比からの抽出以外にも疲労累積係数などから、網羅的に抽出すること。	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－4のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
18	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－5	—	「新規制基準認可時の耐震評価にて適用実績あり」について、認可番号や資料名を提示すること。	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－5のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
19	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－6	—	減肉がない場合の通常運転時における評価結果を追記すること。	当該配管については、設工認の申請対象となる配管ではないため、設工認における強度計算書を未作成であることを確認した。	2023.6.15	2023.6.15
20	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－7	—	PLM40の代表系統の相違箇所として、B-SGBDのS <sub>d</sub> 評価に赤枠が付いているが、B-SGBDのS <sub>s</sub> 評価につけるのが適切ではないか	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－7のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
21	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－8	—	通常運転時のUF評価は、起動停止時と起動停止時以外の詳細評価結果を切り上げて計算した結果、「0.21」となることを資料に追記すること。	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－8のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
22	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－8	—	主蒸気系統配管貫通部の疲労割れに対する評価結果として、B系の評価結果だけでなく、A系の評価結果も併記すること。	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－8のとおり。	2023.6.15	2023.6.15
23	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－9	—	アンカーサポート(余熱除去系統配管)の取替部を現地調査時に確認できるように検討すること。	現地調査時にご確認頂けるよう、対応予定。	2023.6.15	2023.6.15
24	1/2号機	5月16日	回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－10	—	基礎ボルトの表は、回答資料の整理内容を踏まえて、記載を適正化すること。	「回答資料 川内1, 2号炉－耐震安全性評価－10」の通り、ステンレス鋼が使用されている基礎ボルトについては、劣化状況評価書に当該材料を追記する。	2023.6.15	2023.6.15

川内原子力発電所1, 2号炉 運転期間延長認可申請に係るヒアリング  
コメント反映整理表<耐震安全性評価>

2023年8月22日 九州電力㈱

No	対象号機	日付	資料名	該当ページ	コメント内容	コメント対応	回答日	完了日
25	1/2号機	6月15日	コメント回答資料-8 (耐震・耐津波)	15	1号炉の主蒸気系統配管貫通部について、A系とB系で、基準地震動Ssによる疲労累積係数が異なる理由を記載すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-25のとおり。	2023.7.5	2023.7.5
26	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 (耐震・耐津波)	15	主蒸気系統配管について、1号炉と2号炉で基準地震動Ssによる疲労累積係数が違う理由を記載すること。	1号機と2号機でCV貫通部位置(CV貫通部の軸方向はCV半径方向と一致せず、比較的傾いた角度で設置)及び配管ルートが異なり、評価に用いる変位が違うことで差異が生じている。	2023.7.5	2023.7.5
27	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 (耐震・耐津波)	18,19	2号炉の結評価結果を追加すること。	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.18,19]	2023.7.5	2023.7.5
28	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 (耐震・耐津波)	19	破壊力(Japp)、破壊抵抗値(Jmat)の記載を亀裂進展力(Japp)、亀裂進展抵抗(Jmat)に修正すること。	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.19]	2023.7.5	2023.7.5
29	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 (耐震・耐津波)	20	「炉心槽」と「炉心そう」が混在しているため、記載を統一すること。	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.13]	2023.7.5	2023.7.5
30	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	20	評価部位が溶接部であることを明記すること。	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.20]	2023.7.5	2023.7.5
31	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	21	1, 2号炉でリブの板厚が2倍程度違うが、評価結果の差が小さい理由を説明し、補足説明の別紙に追記すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-31のとおり。	2023.7.5	2023.7.5
32	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	24	「応力比、または疲労累積係数が許容値である1を上回らないことを確認した。」の表現を適正化すること。	左記箇所の表現を見直した。 [スライドp.24]	2023.7.5	2023.7.5
33	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	10	「評価項目-評価手法」の表に※を追記すること。	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.10]	2023.7.5	2023.7.5
34	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	17	「表 耐震安全性評価結果」に※1を追記すること。	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.17]	2023.7.5	2023.7.5
35	1/2号機	6月15日	補足説明資料 別紙14 (耐震・耐津波)	26	1, 2号炉で、FH算出の式の違いとなっていると思うが、内訳を追記すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-35のとおり。	2023.7.5	2023.7.5
36	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	28	許容値、規定値(制御棒の挿入時間の2.2秒、破壊靱性値など)は工認から記載していると思うが、説明を追記すること。 補足説明資料にも類似箇所がないか確認すること。	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.27]	2023.7.5	2023.7.5

川内原子力発電所1, 2号炉 運転期間延長認可申請に係るヒアリング  
コメント反映整理表<耐震安全性評価>

2023年8月22日 九州電力㈱

No	対象号機	日付	資料名	該当ページ	コメント内容	コメント対応	回答日	完了日
37	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	29	スライドの順番をP28と入れ替えた方が説明性が高いのではないかと考えるので、検討すること。	スライドp.27とp.28を入れ替え、動的機能維持に係る耐震安全性評価の結果と、水平2方向と鉛直方向の組合せ影響評価結果が続きのページとなるように修正した。	2023.7.5	2023.7.5
38	1/2号機	6月15日	ヒアリング資料 耐震・耐津波	29	「以下の通り～」の記載を「～であるため、問題ないことを確認した。」といった記載に修正すること。(P32の記載を参考)	左記の通り、記載を適正化した。 [スライドp.29]	2023.7.5	2023.7.5
39	1/2号機	6月15日	コメント回答資料 耐震・耐津波 No16		主給水配管の評価手法が設工認とPLMで違う評価手法(谷埋めピーク等)である理由を説明すること。	PLM40では、1号主給水系統配管取替工事と同じ考えに基づいて、サポートを剛とし、FRS谷埋めピーク保持ありの解析条件にて固定点から固定点までを1つの解析範囲とし、その中で各サポート間(1スパン)に集中質量(1マス)を定め、減肉が想定される部分は配管を減肉させたモデルにて解析を実施した。	2023.7.5	2023.7.5
40	1/2号機	6月15日	コメント回答資料 耐震・耐津波 No16		熱時効におけるPLM30と40の差異理由として、ループ解析モデルの変更を記載しているが、ループ解析モデルの変更が熱時効評価にどのような影響を与えるか、繋がりが分かるように記載を追加すること。	回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-4のとおり。	2023.7.5	2023.7.5
41	1/2号機	6月15日	コメント回答資料 耐震・耐津波 No22		補足説明資料にも主蒸気系統配管貫通部のA系の評価結果を併記すること。またA系とB系で評価結果が異なる理由を補足説明に追記すること。	補足説明資料にA系の評価結果を併記した。また、No25の回答を踏まえて補足説明資料に追記した。	2023.7.5	2023.7.5
42	1号	6月26日	配管(低サイクル疲労)	—	溶接部に異材があるが、どのように溶接しているのか説明すること。	バッド(SUS304TP)及びラグ(SS400)の溶接については、SUS309の溶材を使用するが、SS400側の溶け込み量が多くなると高温割れが発生しやすくなるため、施工に当たっては溶接電流及び溶接速度に配慮して溶接を実施している。	2023.7.5	2023.7.5
43	1/2号	6月26日	配管(流れ加速型腐食)	—	施設管理方針において、PLM30時の配管減肉管理に関する記載が、PLM30認可後の補強工事の実施によりPLM40時に削除されていることに対して、その経緯を会合資料に記載すること。	左記内容を、審査会合資料に追加する。 [スライドp.31]	2023.7.5	2023.7.5
44	1/2号機	7月5日	コメント回答資料 耐震・耐津波 No4	-	谷埋めピークについての説明をコメント反映整理表に記載すること。	コメント反映整理表のNo.39に記載を追加した。	2023.8.2	2023.8.2
45	1/2号機	7月5日	コメント回答資料 耐震・耐津波 No25	-	主蒸気系統配管について、評価用地震変位量は2方向を考慮しているか新規制工認も含めて確認すること。	疲労評価に用いる一次+二次+ピーク応力については、設計用疲労線図が最適疲労線図に対して余裕があること、及び疲労評価に用いる地震による繰返し回数についても実際の繰返し回数に対して余裕を持って設計上設定された回数であることから、水平2方向及び鉛直方向地震力を考慮した疲労評価を省略している。よって、新規制基準工認を含めて、主蒸気系統配管貫通部の伸縮継手について水平2方向を考慮しての評価(疲労評価)結果はない。新規制基準工認の添付資料3「耐震性に関する説明書」の補足説明資料3「水平2方向及び鉛直方向の適切な組合せに関する検討についての補足説明資料」の別紙4.5参照。	2023.8.2	2023.8.2
46	1/2号機	7月5日	コメント回答資料 耐震・耐津波 No35	1	復水タンクの基礎ボルトについて、せん断荷重の算出に摩擦力を考慮した経緯をコメント回答資料及び補足説明資料に追記すること。	左記内容を、それぞれコメント回答資料及び補足説明資料に反映した。 [回答資料 川内1, 2号炉-耐震安全性評価-No.46] [川内1号炉 補足説明資料 別紙14 p.14-9]	2023.8.2	2023.8.2



川内原子力発電所1, 2号炉 運転期間延長認可申請に係るヒアリング  
コメント反映整理表<耐震安全性評価>

2023年8月22日 九州電力㈱

No	対象号機	日付	資料名	該当ページ	コメント内容	コメント対応	回答日	完了日
47	1/2号機	7月5日	コメント回答資料 耐震・耐津波 No35	1	設工認において、耐震裕度向上を目的として、SRSSを用いた評価を実施していることがわかるような表現があるか確認すること。	設工認においては、補機(容器)の計算方針に「安全側に絶対和の評価とするが、SRSS法による組合せによる評価も用いる。」と記載があり、SRSSを用いることが記載されている。 新規制基準工認の添付資料3「耐震性に関する説明書」の添付資料3-14「補機(容器)の耐震計算について」の3(1)-14-3参照。  なお、新規制工認時、復水タンクは1, 2号炉とも絶対和を用いて評価を実施している。その一方で、PLM40の1号炉復水タンクの基礎ボルトは、想定される減肉から評価が厳しい見通しであったため、SRSSを用いて基礎ボルトに作用する引張荷重を算出している。	2023.8.2	2023.8.2
48	1/2号機	7月5日	ヒアリング資料 (耐震・耐津波)	24	流れ加速型腐食の耐震評価結果について、適切な表現に見直すこと。	当該記載を適正化した。 [スライドp.24]	2023.8.2	2023.8.2
49	1/2号機	7月18日	資料1-6-1 川内原子力発電所1, 2号炉 劣化状況評価 (耐震・耐津波安全性評価)	24	30年目と40年目の評価の違いについて評価条件や内容が分かるよう具体的な数値を記載した形で補足説明資料に追加すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 2号炉:補足説明資料 別紙22]	2023.8.2	2023.8.2
50	1/2号機	7月18日	資料1-6-1 川内原子力発電所1, 2号炉 劣化状況評価 (耐震・耐津波安全性評価)	32	炭素鋼配管のFACに関する設備対策の優先度の設定の考え方について補足説明資料に追記すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [補足説明資料 別紙1 p.1-1]	2023.8.2	2023.8.2
51	1/2号機	7月18日	資料1-6-1 川内原子力発電所1, 2号炉 劣化状況評価 (耐震・耐津波安全性評価)	—	主給水系統配管の貫通部の疲労評価結果について、A、B、C系統それぞれの評価結果を示すこと。(低サイクル疲労)	回答資料 川内1, 2号炉一耐震安全性評価-51のとおり。	2023.8.2	2023.8.2
52	1/2号機	7月18日	資料1-6-1 川内原子力発電所1, 2号炉 劣化状況評価 (耐震・耐津波安全性評価)	—	主給水系統配管のFACに対する応力評価結果について、最大箇所を図で示すこと。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 添付-2]	2023.8.2	2023.8.2
53	1/2号機	8月2日	ヒアリング資料 (耐震安全性評価)	別紙21	主給水配管の応力比の最大箇所について、拡大図及び評価に用いている材料物性値が低合金鋼、炭素鋼いずれであるかを記載すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 添付-2]	2023.8.17	2023.8.17
54	1/2号機	8月2日	審査会合コメント回答資料 (耐震安全性評価)	23,24	評価結果が逆転している箇所が確認されたことを明記するとともに、2号機の主蒸気系統についても1号機と同様に提示すること。 また、表2, 3について、逆転している数値が明確となるよう、凡例を見直すこと。	左記の内容を審査会合コメント回答資料に追加した。 [審査会合コメント回答資料 p.27,28,29]	2023.8.17	2023.8.17
55	1/2号機	8月2日	回答資料 川内1, 2号炉一 耐震安全性評価-45 (耐震安全性評価)	—	コメント反映整理表No.45の内容を、補足説明資料 別紙4に追記すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙4 p.4-4 2号炉:補足説明資料 別紙4 p.4-4]	2023.8.17	2023.8.17
56	1/2号機	8月2日	回答資料 川内1, 2号炉一 耐震安全性評価-14 (耐震安全性評価)	—	コメント回答資料No.13,14の内容を補足説明資料に追記すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 添付-4]	2023.8.17	2023.8.17
57	1/2号機	8月2日	回答資料 川内1, 2号炉一 耐震安全性評価-49 (耐震安全性評価)	—	主給水配管のうち、PLM30、PLM40、新規制工認及び主給水配管取替工認における評価手法の差異について、別途比較表形式にして回答すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 添付-3]	2023.8.17	2023.8.17
58	1/2号機	8月2日	回答資料 川内1, 2号炉一 耐震安全性評価-39 (耐震安全性評価)	—	主給水配管のうち、PLM40及び主給水配管取替工認における評価手法の差異がないことを明記すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 添付-3]	2023.8.17	2023.8.17

川内原子力発電所1, 2号炉 運転期間延長認可申請に係るヒアリング  
コメント反映整理表<耐震安全性評価>

2023年8月22日 九州電力㈱

No	対象 号機	日付	資料名	該当 ページ	コメント内容	コメント対応	回答日	完了日
59	1/2号機	8月17日	耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	別紙21	(3)の表に工事範囲の名称を記載しているが、モデル図の工事範囲と紐づくように記載を見直すこと。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 添付-2、4]		
60	1/2号機	8月17日	耐震安全性評価 劣化状況評価 補足説明資料	別紙21	主給水、主蒸気配管のFACに対する評価についてPLM30及びPLM40の評価結果を別途比較表形式にして追記すること。	左記の内容を補足説明資料に追加した。 [1号炉:補足説明資料 別紙21 添付-5 2号炉:補足説明資料 別紙22 添付-2]		

タイトル	PLM30高経年化技術評価（耐震安全性評価）との相違点について
説明	<p>機器・配管について、PLM30とPLM40の評価結果の相違を添付－1に示す。</p> <p>なお、PLM30とPLM40では評価に用いた地震動*及び運転実績に基づく過渡回数が異なるが、対象施設全般に係る相違点であるため、添付－1への記載は省略する。また、PLM30の評価結果についてはSs-1とSs-2のうち厳しい値を用いる。</p> <p>※対象施設全般に係る共通的な相違点は下記の通り。</p> <p>[地震動]</p> <p>PLM30:Ss-1, Ss-2 (Ss-1で応力比0.5を超えた設備のみ評価)</p> <p>PLM40:Ss-1, Ss-2</p>

表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較 (1/5)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
熱交換器	胴側耐圧構成品等の腐食 (流れ加速型腐食)	湿分分離加熱器	胴板	C	静的地震力	—	0.44	・PLM30においては、技術評価において腐食の進行による機器の健全性への影響はないとして、耐震評価の対象外としていたが、PLM40においては、技術評価において日常劣化管理事象として整理したため、耐震評価の対象とした。	
配管	疲労割れ	配管サポート (余熱除去系統配管のアンカーサポート)	配管とパッドの溶接部	S	S <sub>s</sub>	(一次)	(一次)	・サポートの改造。(パイプラグ⇒角ラグ、すみ肉溶接⇒完全溶け込み溶接) ・応力の組合せの変更。(SRSS⇒絶対和)	応力比
						0.43	0.50		
			(一次+二次)		(一次+二次)				
			0.44		0.53				
			パッドとラグの溶接部		S <sub>s</sub>	(一次)	(一次)		
						0.85	0.20		
	(一次+二次)	(一次+二次)							
	0.85	0.23							
	ラグとプレートの溶接部	S <sub>d</sub>	(一次)	—					
			0.79	—					
	(一次+二次)	—							
	0.62	—							
母管の腐食 (流れ加速型腐食)	主蒸気系統配管	—	—	S	S <sub>s</sub>	(一次)	(一次)	・解析条件の変更。(スペクトルモーダル解析、サポート剛性考慮、分布マス及びFRS谷埋めなしを使用) ・各系統における評価結果の比較を添付-5に示す。	
						0.71	0.57		
						(一次+二次)	(一次+二次)		
					1.47	1.09			
					(疲労累積係数)	(疲労累積係数)			
					0.881	0.611			
S <sub>d</sub>	(一次)	(一次)							
	0.81	0.89							
	(一次+二次)	(一次+二次)							
0.71	0.61								



表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較 (2/5)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
配管	母管の腐食 (流れ加速型腐食)	主給水系統配管	-	S	S s	(一次)	(一次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>解析条件の変更。(PLM30においては、サポート剛性考慮、配管の質量を分布マス及びFRS谷埋めなしを使用、PLM40では、サポートを剛とし、配管の質量を1スパン1マス及び谷埋めピーク保持あり)(添付-3参照)</li> <li>配管取替工事(炭素鋼(STS49)⇒炭素鋼(STS480)及び低合金鋼(STPA24))</li> <li>PLM30においては、一部の評価において、43年後の推定板厚による評価を実施していたが、PLM40においては、必要最小板厚による評価を実施しているため。</li> <li>主給水系統配管におけるPLM30及びPLM40の応力評価最大点を添付-2に示す。</li> <li>各系統における評価結果の比較を添付-5に示す。</li> </ul>	応力比
						(一次+二次)	(一次+二次)		
						(疲労累積係数)	(疲労累積係数)		
					S d	(一次)	(一次)		
						(一次+二次)	(一次+二次)		
						(疲労累積係数)	(疲労累積係数)		
		補助蒸気系統配管	-	C	静的地震力	(一次)	(一次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PLM30以降にPLM30の評価結果を基に耐震補強工事を実施したことによる代表配管の変更。</li> <li>PLM30においては、41年後の推定板厚による評価を実施していたが、PLM40においては、必要最小板厚による評価を実施しているため。</li> </ul>	
						(一次)	(一次)		
		2次系ドレン系統配管	-	C	静的地震力	(一次)	(一次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PLM30以降にPLM30の評価結果を基に耐震補強工事を実施したことによる代表配管の変更。</li> <li>PLM30においては、評価手法によらず、最終的な応力比が大きいラインを代表として記載していた。</li> <li>PLM40においては、評価の精緻化として、FEMモデルを用いた評価を実施した評価点のうち、応力比が大きいラインを記載したことによる代表配管の変更。</li> </ul>	
						(一次)	(一次)		
		蒸気発生器 ブローダウン系統配管	-	S		S s	(一次)	(一次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PLM30においては、一次+二次応力最大点の疲労累積係数を記載したが、PLM40においては、疲労累積係数最大点の値を記載しているため。</li> </ul>
							(一次+二次)	(一次+二次)	
(疲労累積係数)	(疲労累積係数)								
S d	(一次)					(一次)			
	(一次+二次)					(一次+二次)			
	(疲労累積係数)					(疲労累積係数)			

表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較 (3/5)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
炉内構造物	照射誘起型応力腐食割れ	炉内構造物	バップルフォーマボルト	S	S s	(一次) 0.11	—	・PLM40においては、技術評価におけるバップルフォーマボルトの損傷本数が0本であったため、耐震安全性評価の対象外とした。	応力比
空調設備	内面腐食(流れ加速型腐食)	空調用冷凍機	凝縮器伝熱管	C	静的地震力	(一次) 0.22	(一次) 0.29	・評価に用いる板厚の変更。(必要最小板厚⇒施栓基準) ・評価に用いる外径寸法の変更。(管端部外径⇒フィン部谷径)	
機械設備	腐食(全面腐食)	原子炉容器サポート	サポートリブ	S	S s	0.14	0.15	・運転開始後30年目以降の運転実績を反映し、EFPY見直した。	
		海水ポンプ	基礎ボルト	S	S s	【せん断】(一次) 0.04	【せん断】(一次) —	・海水ポンプ取替工認を踏まえ、PLM40においては、ボルトのせん断評価を実施不要とした。(海水ポンプ取替工認でボルト接合部の摩擦力>水平地震力となり、評価不要と判断した。)	
		燃料取替用水タンク	基礎ボルト	S	S s	【引張】(一次) 0.50	【引張】(一次) 0.57	・PLM30においては、新規制基準工認の審査中であったため、設置高さが同等である本館側の建屋モデルにて評価を実施したが、PLM40においては、新規制基準工認にて認可された建屋モデル「屋外タンク基礎」を用いて評価を実施した。	
						【せん断】(一次) 0.55	【せん断】(一次) 0.53		
		復水タンク	基礎ボルト	S	S s	【引張】(一次) 0.86	【引張】(一次) 0.74	・応力の組合せの変更。(絶対和⇒SRSS)	
						【せん断】(一次) 0.09	【せん断】(一次) 0.36		
		緊急時対策所用発電機車用給油ポンプ	基礎ボルト	—	—	【引張】(一次) —	【引張】(一次) 0.02	・PLM30認可以降に新設された設備。	
						【せん断】(一次) —	【せん断】(一次) 0.03		
緊急時対策所用発電機車用燃料油貯蔵タンク	基礎ボルト	—	—	【引張】(一次) —	【引張】(一次) 0.12				
				【せん断】(一次) —	【せん断】(一次) 0.07				

表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較(4/5)

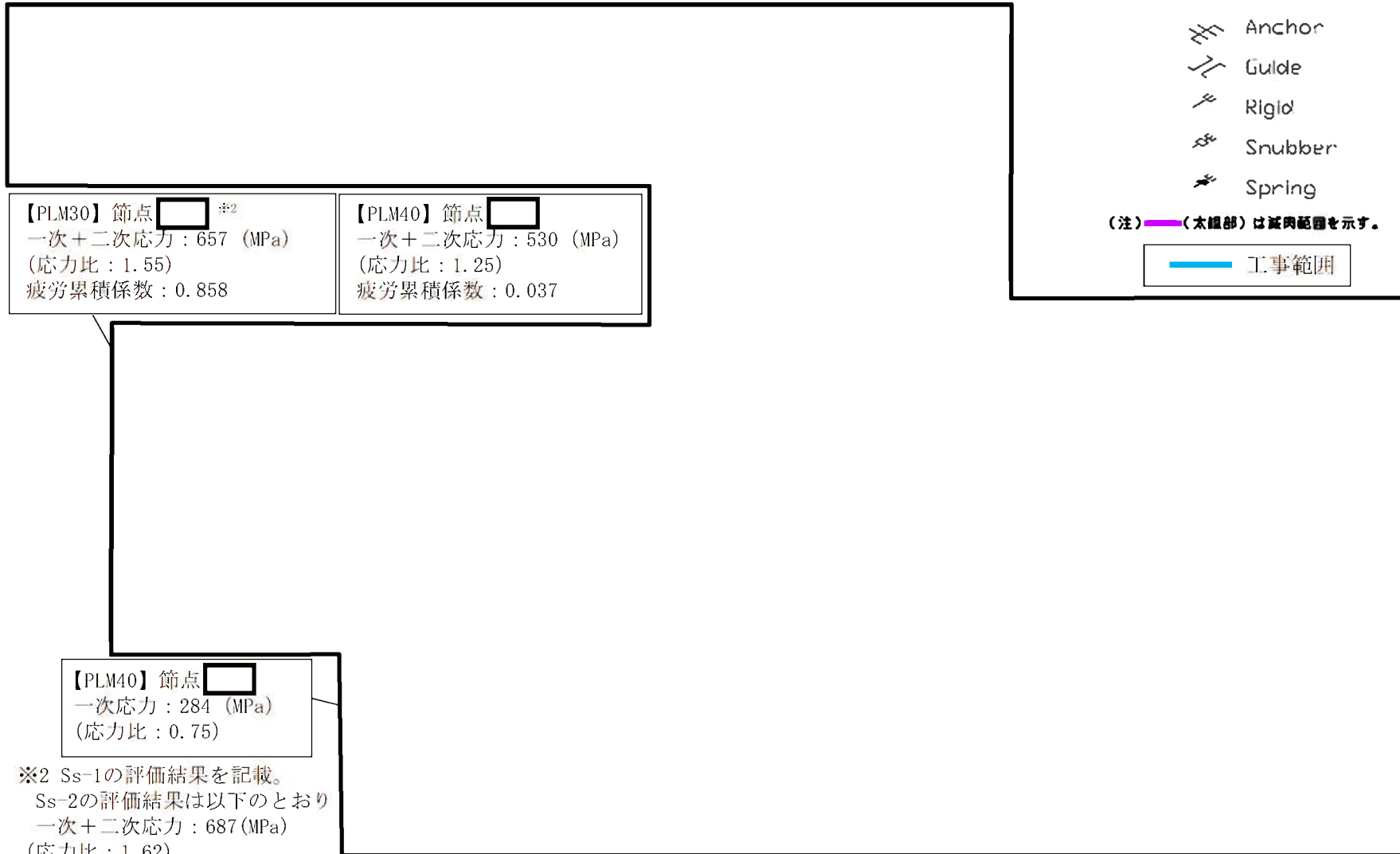
機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
機械設備	腐食(全面腐食)	主給水系統配管	基礎ボルト	S	S <sub>s</sub>	【引張】 (一次) 0.72	【引張】 (一次) 0.91	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解析条件の変更。(時刻歴⇒スペクトルモーダル解析)</li> <li>・配管取替工事(炭素鋼⇒低合金鋼)</li> </ul>	応力比
						【せん断】 (一次) 0.68	【せん断】 (一次) 0.25		
					S <sub>d</sub>	【引張】 (一次) -	【引張】 (一次) 0.61		
						【せん断】 (一次) -	【せん断】 (一次) 0.17		
電源設備	伝熱管の腐食 (流れ加速型腐食)	清水冷却器	伝熱管	S	S <sub>s</sub>	(一次) -	(一次) 0.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PLM30においては、技術評価において、「復水器工学ハンドブック：川辺ら(愛智出版)」に示されている海中での潰食発生限界流速と管内流速を比較し、流れ加速型腐食が発生しないとの整理をしていたため、耐震評価を実施していなかった。</li> <li>・PLM40においては、技術評価において、日常劣化管理事象として整理したため、耐震評価を実施した。</li> </ul>	
		潤滑油冷却器	伝熱管	S	S <sub>s</sub>	(一次) -	(一次) 0.10		
		燃料弁冷却水冷却器	伝熱管	S	S <sub>s</sub>	(一次) -	(一次) 0.04		
ポンプ配管	熱時効	1次冷却材ポンプ	ケーシング吐出ノズル	S	S <sub>s</sub>	(応力) 105 MPa	(応力) 104 MPa	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PLM30においては、申請時にストレステストを実施済みであったことから、ストレステストの状況を踏まえたループ荷重を用いて熱時効の健全性評価を実施していた。なお、ストレステストにおいては、より現況に近い状態での評価を行うため、主蒸気/主給水系統配管等の炭素鋼配管に当時の減肉に基づいたモデルで評価した。</li> <li>・PLM40においては、既往の設工認評価を用いて、設計条件(減肉なし)のループ荷重を用いて亀裂安定性評価を実施していることによる差異。</li> <li>・熱時効の亀裂進展力(Japp)の算出にあたっては、配管及びポンプに負荷される荷重として、S<sub>s</sub>地震動による荷重を入力していることから、ループ荷重が変更となることで、30年目と40年目で差異が生じている。</li> </ul>	熱時効健全性評価
		1次冷却材管	コールドレグ	S	S <sub>s</sub>	(応力) 105 MPa	(応力) 104 MPa		

表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較 (5/5)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
熱交換器	疲労割れ	蒸気発生器	給水入口管台	S	S s	(通常運転時) 0.463 (地震時) 0.000 (合計) 0.463	(通常運転時) 0.307 (地震時) 0.000 (合計) 0.307	・PLM30以降に材料物性の変更及び熱成層解析モデルを見直したことによる変更。	疲労累積係数
炉内構造物	疲労割れ	炉内構造物	下部炉心支持柱 (水平2方向)	S	S s	(通常運転時) 0.030 (地震時) 0.016 (合計) 0.046	(通常運転時) 0.030 (地震時) 0.005 (合計) 0.035	・PLM30においては、水平と鉛直方向にかかる応力に対して $\sqrt{2}$ 倍としていたが、PLM40においては、新規制基準工認の評価に合わせて、水平方向のみを $\sqrt{2}$ 倍とした。	
機械設備 (原子炉容器上部 ふた付属設備)	疲労割れ	制御棒クラスタ 駆動装置	ラッチ ハウジング	S	S s	(通常運転時) 0.001 (地震時) 0.000 (合計) 0.001	—	・PLM30においては、技術評価において高経年化対策上着目すべき経年劣化事象として整理し、耐震評価を実施していたが、PLM40においては技術評価において起動・停止時等に発生する荷重が小さく、有意な応力変動を受けない構造となっていることから、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではないと整理しており、耐震評価の対象としていない。	
機械設備 (原子炉容器上部 ふた付属設備)	疲労割れ	制御棒クラスタ 駆動装置	駆動軸 ハウジング	S	S s	(通常運転時) 0.001 (地震時) 0.000 (合計) 0.001	—	・PLM30においては、技術評価において高経年化対策上着目すべき経年劣化事象として整理し、耐震評価を実施していたが、PLM40においては技術評価において起動・停止時等に発生する荷重が小さく、有意な応力変動を受けない構造となっていることから、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではないと整理しており、耐震評価の対象としていない。	挿入時間
機械設備 (原子炉容器 内挿物)	摩耗 (制御棒挿入性)	制御棒クラスタ	被覆管	S	S s	(地震+劣化) 1.74秒 耐震安全性評価書 の機械設備に に記載。	(地震+劣化) 1.74秒 耐震安全性評価書 の炉内構造物 に記載。	・PLM40においては、炉内構造物の耐震安全性評価のうち制御棒クラスタ案内管(案内板)の摩耗に対する耐震安全性評価において、制御棒クラスタ案内管(案内板)と被覆管の摩耗を考慮した挿入性評価を実施しており、本項には記載していない。	



※1 エルボ部詳細は添付-2 (3/4), (4/4) 参照



添付-2 (1/4)






※2 Ss-1の評価結果を記載。  
Ss-2の評価結果は以下のとおり  
一次+二次応力：687 (MPa)  
(応力比：1.62)  
疲労累積係数：0.991


主給水系統配管 B, C - 主給水配管 (CV外) 【S s 地震】

【PLM30】 節点

一次応力：76 (MPa)  
(応力比：0.51)

※エルボ部詳細は添付-2 (3/4), (4/4) 参照

-  Anchor
-  Guide
-  Rigid
-  Snubber
-  Spring

(注)  (太線部) は減肉範囲を示す。

 工事範囲

【PLM30】 節点

一次+二次応力：400 (MPa)  
(応力比：0.94)

【PLM40】 節点

一次+二次応力：288 (MPa)  
(応力比：0.68)

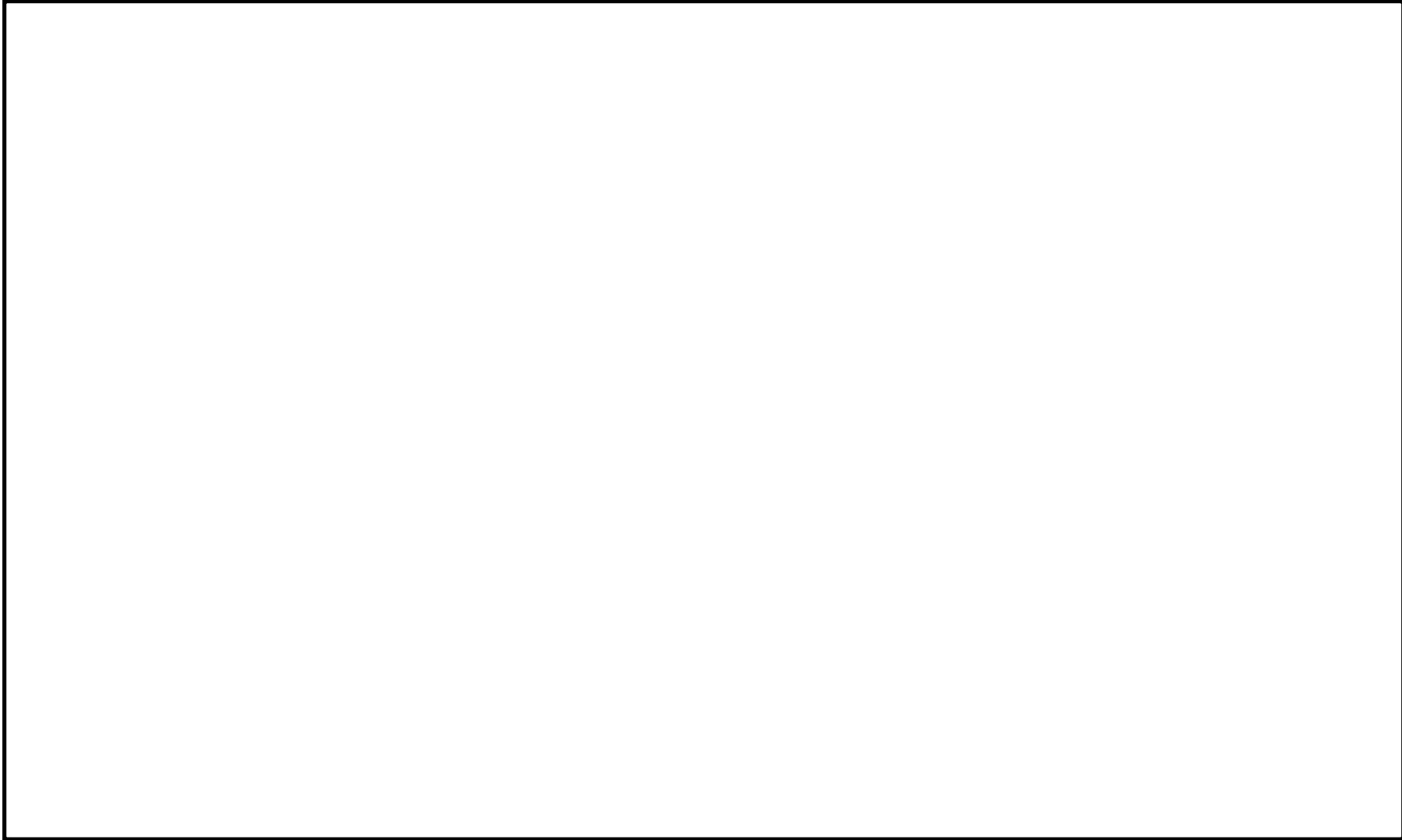
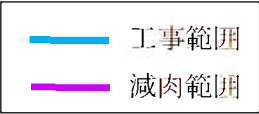
【PLM40】 節点

一次応力：206 (MPa)  
(応力比：0.90)

主給水系統配管 B, C-主給水配管 (CV外) 【S d 地震】

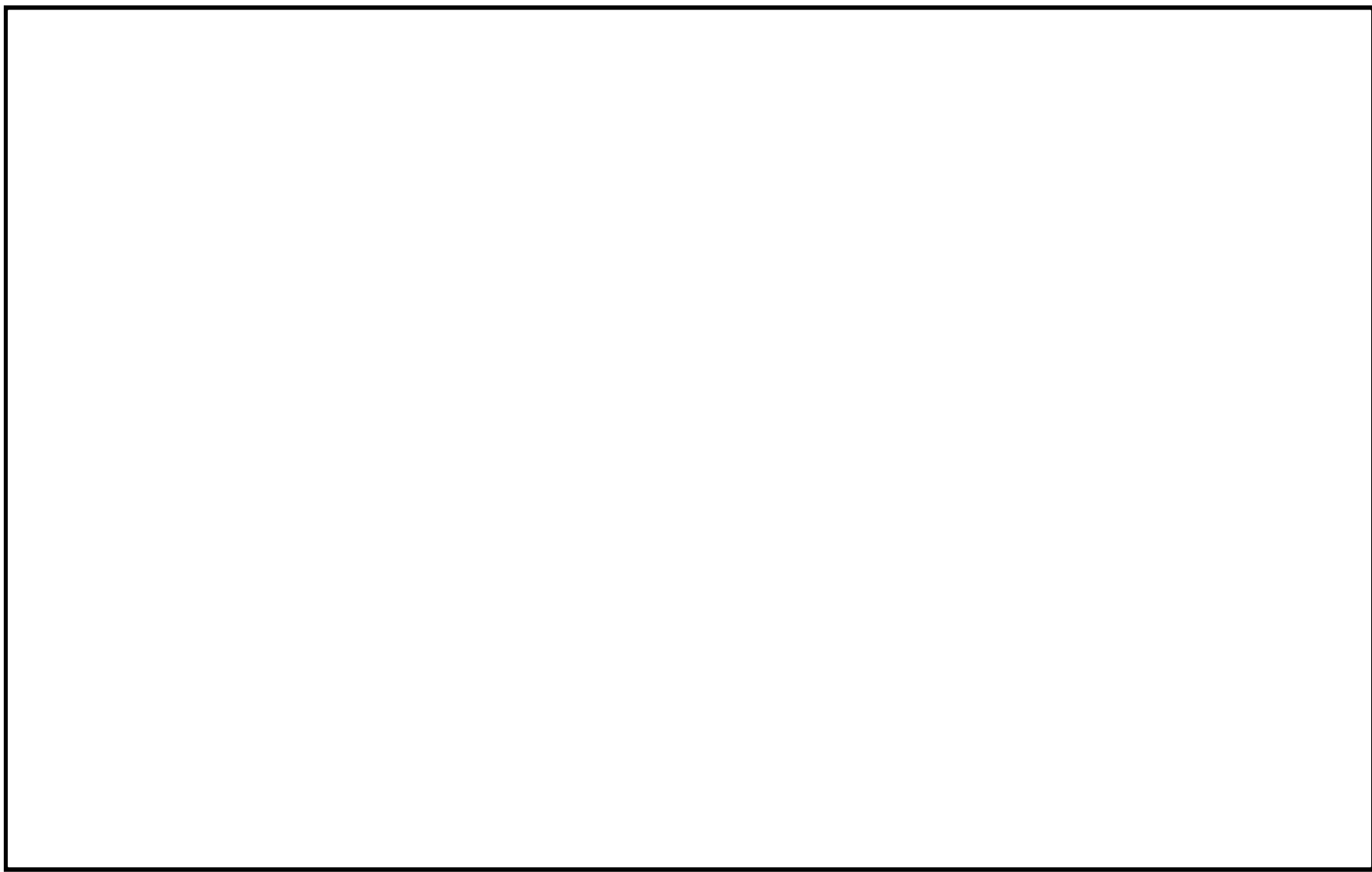
添付-2 (2/4)





主給水系統配管 B - 主給水配管 (CV外) PEN303近傍拡大図

— 工事範囲



添付— 2 ( 4 / 4 )

主給水系統配管 C - 主給水配管 (C V外) PEN305近傍拡大図

表 主給水系統配管—流れ加速型腐食に対する評価手法比較

		配管取替工事 実施前		配管取替工事 実施後 (時)	
		新規制基準工認	PLM30	主給水配管取替工認 <sup>※2</sup>	PLM40 <sup>※3</sup>
認可日等		2015年3月18日付け 原規規発第1503181号にて認可	2015年08月05日付け 原規規発第15080516号にて認可	2017年11月1日付け 原規規発第1711013号にて認可	2022年年10月12日付け申請
FRS (建屋応答 スペクトル)	基準 地震動	Ss-1, Ss-2	Ss-1, Ss-2(Ss-1で応力比0.5を超 えた設備のみ評価)	Ss-1, Ss-2	Ss-1, Ss-2
	谷埋めピーク 保持の有無	無し	— <sup>※1</sup>	有り	(A系) 無し (B, C系) 有り
解析 モデル	解析手法	スペクトルモーダル解析	時刻歴応答解析	スペクトルモーダル解析	スペクトルモーダル解析
	質点位置	分布マス	分布マス	1スパン1マス	(A系) 分布マス (B, C系) 1スパン1マス
	支持部剛性	サポート剛性を考慮	サポート剛性を考慮	剛として設定	(A系) サポート剛性を考慮 (B, C系) 剛として設定
	炭素鋼配管 減肉考慮の 有無	無し	有り (A系) Tsr (B, C系) Tsr及び一部に 推定肉厚適用	無し	有り (Tsr)
備 考		<p>※1 時刻歴応答解析を実施しているため「—」とした。</p> <p>※2 PLM30の結果を踏まえ、B, C系のみ取替工事を実施した。</p> <p>※3 最新の工認と同条件で評価を実施しており、A系は新規制基準工認、B, C系は配管取替工認が最新の工認である。</p>			

## 川内１号機 主給水配管取替工事の概要について

以下に、平成29年11月1日付け原規規発第1711013号にて認可された工事計画（川内１号機主給水配管取替工事）の、具体的工事内容について示す。

## (1) 工事概要

主給水配管については、炭素鋼製配管であったことから、曲がり部において流れ加速型腐食による減肉が想定されるため、当該部位の材質を減肉傾向の小さい低合金鋼へと取替えた。

## (2) 工事範囲の設計条件

系統名称	機器区分	最高使用圧力	最高使用温度
主給水系統	クラス２配管 (重大事故等クラス２)	7.48MPa (8.0MPa)	291℃ (344℃)

## (3) 工事範囲の主要配管材料

範囲		仕様
主給水ライン合流点 ～ 格納容器貫通部 (貫通部番号 301, 303, 305)	既設	16B×S80* <sup>1</sup> STS49
	新設	16B×S120* <sup>1</sup> STS480* <sup>2</sup>
		16B×S120* <sup>1</sup> STPA24

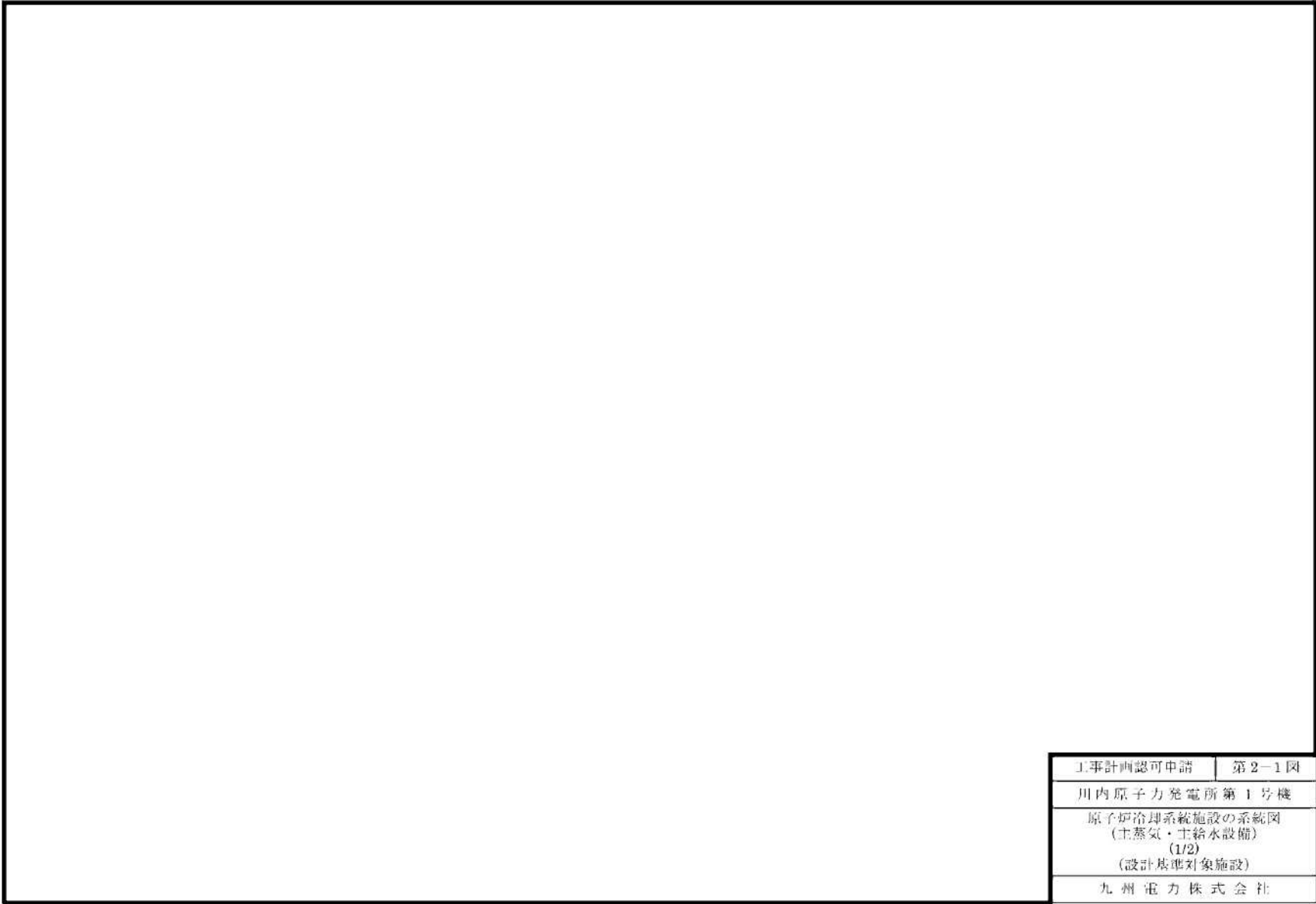
※１：曲がり部を施工性の観点からエルボ管に変更したことにより、曲げ半径が小さくなったことから応力係数が増加したため、厚肉（sch80⇒sch120）へと変更した。

※２：現地配管との取合部（現地溶接線）については、異材溶接を回避するため同材取合いとし、溶接部については全て突合せ溶接とした。

## (4) 系統図

工事範囲を示す系統図（設計基準対象施設）を次ページに示す。

以 上



工事計画認可申請	第2-1図
川内原子力発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (主蒸気・主給水設備) (1/2) (設計基準対象施設)	
九州電力株式会社	

添付—4 (2/2)

表1 川内1号炉 PLM30/40 評価結果比較 (FAC-主蒸気系統配管)

			PLM30			PLM40		
評価対象	地震波	許容応力状態	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比
A-主蒸気配管 (CV外)	Ss	一次応力	110	315	0.35	169	315	0.54
		一次+二次応力	154	318	0.48	200	318	0.63
	Sd	一次応力	110 以下	159	0.69 以下	129	159	0.81
		一次+二次応力	154 以下	318	0.48 以下	117	318	0.37
B-主蒸気配管 (CV外)	Ss	一次応力	153	315	0.49	181	315	0.57
		一次+二次応力	269	318	0.85	230	318	0.72
	Sd	一次応力	153 以下	168	0.91 以下	142	159	0.89
		一次+二次応力	269 以下	318	0.85 以下	133	318	0.42
C-主蒸気配管 (CV外)	Ss	一次応力	224	315	0.71	179	315	0.57
		一次+二次応力	469	318	1.47	366	336	1.09
		疲労	0.881			0.611		
	Sd	一次応力	129	159	0.81	141	159	0.89
		一次+二次応力	227	318	0.71	206	336	0.61
A-主蒸気配管 (CV内)	Ss	一次応力	90	324	0.28	96	324	0.30
		一次+二次応力	58	336	0.17	70	336	0.21
	Sd	一次応力	90 以下	168	0.54 以下	96 以下	168	0.57 以下
		一次+二次応力	58 以下	336	0.17 以下	70 以下	336	0.21 以下
B-主蒸気配管 (CV内)	Ss	一次応力	91	324	0.28	99	324	0.31
		一次+二次応力	67	336	0.20	81	336	0.24
	Sd	一次応力	91 以下	168	0.54 以下	99 以下	168	0.59 以下
		一次+二次応力	67 以下	336	0.20 以下	81 以下	336	0.24 以下
C-主蒸気配管 (CV内)	Ss	一次応力	91	324	0.28	96	324	0.30
		一次+二次応力	64	336	0.19	74	336	0.22
	Sd	一次応力	91 以下	168	0.54 以下	96 以下	168	0.57 以下
		一次+二次応力	64 以下	336	0.19 以下	74 以下	336	0.22 以下

評価書記載値



表2 川内1号炉 PLM30/40 評価結果比較 (FAC-主給水系統配管)

			PLM30			PLM40		
評価対象	地震波	許容応力状態	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比
A - 主給水配管 (CV外)	Ss	一次応力	168	380	0.44	158	380	0.42
		一次+二次応力	218	458	0.48	202	424	0.48
	Sd	一次応力	168 以下	229	0.73 以下	124	212	0.58
		一次+二次応力	218 以下	458	0.48 以下	118	424	0.28
B、C - 主給水配管※1 (CV外)	Ss	一次応力	142	380	0.37	284	380	0.75
		一次+二次応力	687	424	1.62	530	424	1.25
		疲労	0.991			0.037		
	Sd	一次応力	76	150	0.51	206	229	0.90
		一次+二次応力	400	424	0.94	288	424	0.68
A - 主給水配管 (CV内)	Ss	一次応力	110	380	0.29	110	380	0.29
		一次+二次応力	95	424	0.22	117	424	0.28
	Sd	一次応力	110 以下	212	0.52 以下	110 以下	212	0.52 以下
		一次+二次応力	95 以下	424	0.22 以下	117 以下	424	0.28 以下
B - 主給水配管 (CV内)	Ss	一次応力	101	380	0.27	101	380	0.27
		一次+二次応力	64	424	0.15	93	424	0.22
	Sd	一次応力	101 以下	212	0.48 以下	101 以下	212	0.48 以下
		一次+二次応力	64 以下	424	0.15 以下	93 以下	424	0.22 以下
C - 主給水配管 (CV内)	Ss	一次応力	111	380	0.29	111	380	0.29
		一次+二次応力	86	424	0.20	103	424	0.24
	Sd	一次応力	111 以下	212	0.52 以下	111 以下	212	0.52 以下
		一次+二次応力	86 以下	424	0.20 以下	103 以下	424	0.24 以下

※1 B系とC系は解析条件が同じであるため評価結果は共通

 評価書記載値

タイトル	PLM30高経年化技術評価（耐震安全性評価）との相違点について
説明	<p>機器・配管について、PLM30とPLM40の評価結果の相違を添付－1に示す。</p> <p>主蒸気、主給水系統配管の流れ加速型腐食における評価結果の比較については添付－2に示す。</p> <p>なお、PLM30とPLM40では評価に用いた地震動*及び運転実績に基づく過渡回数が異なるが、対象施設全般に係る相違点であるため、添付－1への記載は省略する。また、PLM30の評価結果についてはSs-1とSs-2のうち厳しい値を用いる。</p> <p>※対象施設全般に係る共通的な相違点は下記の通り。</p> <p>【地震動】</p> <p>PLM30:Ss-1, Ss-2 (Ss-1で応力比0.5を超えた設備のみ評価)</p> <p>PLM40:Ss-1, Ss-2</p>

表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較 (1/4)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
熱交換器	胴側耐圧構成品等の腐食 (流れ加速型腐食)	湿分分離加熱器	胴板	C	静的地震力	(一次) 0.43	(一次) 0.44	・PLM30においては、機器取替前、PLM40においては、機器取替後の機器に対する評価を実施した。	応力比
		低圧第3給水加熱器	胴板	C	静的地震力	(一次) 0.58	(一次) 0.41		
配管	母管の腐食 (流れ加速型腐食)	タービンランド蒸気系統配管	—	C	静的地震力	(一次) 0.83	(一次) 0.93	・PLM30以降にPLM30の評価結果を基に耐震補強工事を実施した。 ・PLM30においては、41年後の推定板厚による評価を実施していたが、PLM40においては、必要最小板厚による評価を実施しているため。	
		補助蒸気系統配管	—	C	静的地震力	(一次) 0.90	(一次) 0.39	・PLM30においては、評価手法によらず、最終的な応力比が大きいラインを代表として記載していた。 ・PLM40においては、評価の精緻化(応力算出手法:材料力学に基づく公式⇒FEMモデル)を実施した評価点のうち応力比が大きいラインを記載したことによる代表配管の変更。 ・PLM30においては、41年後の推定板厚による評価を実施していたが、PLM40においては、必要最小板厚による評価を実施しているため。	
		2次系ドレン系統配管	—	C	静的地震力	(一次) 0.89	(一次) 0.79	・PLM30以降にPLM30の評価結果を基に耐震補強工事を実施したことによる代表配管の変更。 ・PLM30においては、41年後の推定板厚による評価を実施していたが、PLM40においては、必要最小板厚による評価を実施しているため。	
		蒸気発生器 ブローダウン系統配管	—	S	S s	(一次) 0.46	(一次) 0.64	・解析条件の変更。(時刻歴解析⇒スペクトルモーダル解析) ・サポート追設工事 ・PLM30においては、一部の評価において41年後の推定板厚による評価を実施していたが、PLM40においては、必要最小板厚による評価を実施しているため。	
(一次+二次) 0.97	(一次+二次) 1.18								
(疲労累積係数) —	(疲労累積係数) 0.020								
S d	(一次) —	(一次) 0.88							
	(一次+二次) —	(一次+二次) 0.70							

表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較(2/4)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別	
炉内構造物	照射誘起型応力腐食割れ	炉内構造物	バブルフォームボルト	S	S s	(一次) 0.11	(一次) -	・PLM40においては、技術評価におけるバブルフォームボルトの損傷本数が0本であったため、耐震安全性評価の対象外とした。	応力比	
空調設備	内面腐食 (流れ加速型腐食)	空調用冷凍機	凝縮器伝熱管	C	静的地震力	(一次) 0.22	(一次) 0.29	・評価に用いる板厚の変更。(必要最小板厚⇒施栓基準) ・評価に用いる外径寸法の変更。(管端部外径⇒フィン部谷径)		
機械設備	照射脆化	原子炉容器サポート	サポートリブ	S	S s	0.15	0.15	・運転開始後30年目以降の運転実績を反映し、EFPY見直した。		
	腐食(全面腐食)	海水ポンプ	基礎ボルト	S	S s	【せん断】 (一次) 0.04	【せん断】 (一次) -	・海水ポンプ取替工認を踏まえ、PLM40においては、ボルトのせん断評価を実施不要とした。 (海水ポンプ取替工認でボルト接合部の摩擦力>水平地震力となり、評価不要と判断した。)		
		主蒸気系統配管	基礎ボルト	S	S s	【引張】 (一次) 0.73 【せん断】 (一次) 0.33	【引張】 (一次) 0.82 【せん断】 (一次) 0.20	・転倒支点をモーメント中立軸からボルト端部に変更したことによる代表配管の変更。		
電源設備	伝熱管の腐食 (流れ加速型腐食)	清水冷却器	伝熱管	S	S s	(一次) -	(一次) 0.16	・PLM30においては、技術評価において、「復水器工学ハンドブック：川辺ら(愛智出版)」に示されている海水中での潰食発生限界流速と管内流速を比較し、流れ加速型腐食が発生しないとの整理をしていたため、耐震評価を実施していなかった。 ・PLM40においては、技術評価において、日常劣化管理事象として整理したため、耐震評価を実施した。		
		潤滑油冷却器	伝熱管	S	S s	(一次) -	(一次) 0.10			
		燃料弁冷却水冷却器	伝熱管	S	S s	(一次) -	(一次) 0.04			
配管	熱時効	1次冷却材管	ホットレグ直管	S	S s	(応力) 142 MPa	(応力) 149 MPa	・PLM30においては、申請時にストレステストを実施済みであったことから、ストレステストの状況を踏まえたループ荷重を用いて熱時効の健全性評価を実施していた。なお、ストレステストにおいては、より現況に近い状態での評価を行うため、主蒸気/主給水系統配管等の炭素鋼配管に当時の減肉に基づいたモデルで評価した。 ・PLM40においては、既往の設工認評価を用いて、設計条件(減肉なし)のループ荷重をもとに用いて亀裂安定性評価を実施していること及びPLM30以降に蒸気発生器取替工事のモデルを反映したことによる差異。 ・応力最大箇所が「蓄圧タンク注入管台」→「ホットレグ直管」になったことによる代表箇所の変更。		熱時効健全性評価
			蓄圧タンク注入管台	S	S s	(応力) 145 MPa	(応力) -			

表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較 (3/4)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震 重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
熱交換器	疲労割れ	蒸気発生器	管板廻り	S	S s	(通常運転時) 0.143	(通常運転時) 0.112	・PLM30以降に蒸気発生器取替工事を行ったことによる変更。	疲労累積係数
						(地震時) 0.002	(地震時) 0.003		
				(合計) 0.145	(合計) 0.115				
				(通常運転時) 0.143	(通常運転時) 0.112				
			S d	(地震時) 0.000	(地震時) 0.000				
				(合計) 0.143	(合計) 0.112				
給水入口管台	S	S s	(通常運転時) 0.502	(通常運転時) 0.309					
			(地震時) 0.000	(地震時) 0.000					
(合計) 0.502	(合計) 0.309								
給水入口管台 (水平2方向)	S	S s	(通常運転時) 0.502	(通常運転時) 0.309					
			(地震時) 0.000	(地震時) 0.000					
			(合計) 0.502	(合計) 0.309					
			(通常運転時) 0.502	(通常運転時) 0.309					



表1 耐震安全性評価結果 30年目と40年目の比較 (4/4)

機種名	経年劣化事象	機器名称		耐震 重要度	地震動	PLM30評価結果	PLM40評価結果	PLM30とPLM40の差異の理由	評価種別
容器	疲労割れ	原子炉容器本体	出口管台	S	S s	(通常運転時) 0.045 (地震時) 0.000 (合計) 0.045	(通常運転時) 0.043 (地震時) 0.000 (合計) 0.043	・PLM30以降に原子炉容器出口管台溶接部保全計画工事を行ったことによる変更。	疲労累積係数
炉内構造物	疲労割れ	炉内構造物	下部炉心支持柱 (水平2方向)	S	S s	(通常運転時) 0.030 (地震時) 0.030 (合計) 0.060	(通常運転時) 0.030 (地震時) 0.009 (合計) 0.039	・PLM30においては、水平と鉛直方向にかかる応力に対して $\sqrt{2}$ 倍とされていたが、PLM40においては、新規制基準工認の評価に合わせて、水平方向のみを $\sqrt{2}$ 倍とした。	
機械設備 (原子炉容器上部 ふた付属設備)	疲労割れ	制御棒クラス タ駆動装置	ラッチ ハウジング	S	S s	(通常運転時) 0.001 (地震時) 0.000 (合計) 0.001	(通常運転時) — (地震時) — (合計) —	・PLM30においては、技術評価において高経年化対策上着目すべき経年劣化事象として整理し、耐震評価を実施していたが、PLM40においては、技術評価において起動・停止時等に発生する荷重が小さく、有意な応力変動を受けない構造となっていることから、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではないと整理しており、耐震評価の対象としていない。	
機械設備 (原子炉容器上部 ふた付属設備)	疲労割れ	制御棒クラス タ駆動装置	駆動軸 ハウジング	S	S s	(通常運転時) 0.001 (地震時) 0.000 (合計) 0.001	(通常運転時) — (地震時) — (合計) —	・PLM30においては、技術評価において高経年化対策上着目すべき経年劣化事象として整理し、耐震評価を実施していたが、PLM40においては、技術評価において起動・停止時等に発生する荷重が小さく、有意な応力変動を受けない構造となっていることから、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではないと整理しており、耐震評価の対象としていない。	
機械設備 (原子炉容器 内挿物)	摩耗 (制御棒挿入性)	制御棒クラス タ	被覆管	S	S s	(地震+劣化) 1.73秒 耐震安全性評価書 の機械設備に に記載。	(地震+劣化) 1.73秒 耐震安全性評価書 の炉内構造物 に記載。	・PLM40においては、炉内構造物の耐震安全性評価のうち制御棒クラス案内管(案内板)の摩耗に対する耐震安全性評価において、制御棒クラス案内管(案内板)と被覆管の摩耗を考慮した挿入性評価を実施しており、本項には記載していない。	挿入時間



表1 川内2号炉 PLM30/40 評価結果比較 (FAC-主蒸気系統配管)

			PLM30			PLM40		
評価対象	地震波	許容応力状態	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比
A-主蒸気配管 (CV外)	Ss	一次応力	151	315	0.48	153	315	0.49
		一次+二次応力	290	336	0.86	296	336	0.88
	Sd	一次応力	151 以下	159	0.95 以下	123	159	0.77
		一次+二次応力	290 以下	336	0.86 以下	178	336	0.53
B-主蒸気配管 (CV外)	Ss	一次応力	161	315	0.51	161	315	0.51
		一次+二次応力	224	336	0.67	224	336	0.67
	Sd	一次応力	128	159	0.81	128	159	0.81
		一次+二次応力	135	336	0.40	135	336	0.40
C-主蒸気配管 (CV外)	Ss	一次応力	222	315	0.70	222	315	0.70
		一次+二次応力	480	318	1.51	480	318	1.51
		疲労	疲労累積係数 : 0.763			疲労累積係数 : 0.763		
	Sd	一次応力	158	159	0.99	158	159	0.99
		一次+二次応力	293	318	0.92	293	318	0.92
A-主蒸気配管 (CV内)	Ss	一次応力	90	324	0.28	90	324	0.28
		一次+二次応力	59	336	0.18	59	336	0.18
	Sd	一次応力	78	168	0.46	78	168	0.46
		一次+二次応力	36	336	0.11	36	336	0.11
B-主蒸気配管 (CV内)	Ss	一次応力	88	324	0.27	88	324	0.27
		一次+二次応力	64	336	0.19	61	336	0.18
	Sd	一次応力	77	168	0.46	78	168	0.46
		一次+二次応力	38	336	0.11	38	336	0.11
C-主蒸気配管 (CV内)	Ss	一次応力	91	324	0.28	91	324	0.28
		一次+二次応力	62	336	0.18	62	336	0.18
	Sd	一次応力	79	168	0.47	79	168	0.47
		一次+二次応力	37	336	0.11	37	336	0.11

評価書記載値

表2 川内2号炉 PLM30/40 評価結果比較 (FAC-主給水系統配管)

			PLM30			PLM40		
評価対象	地震波	許容応力状態	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比	応力 (MPa)	許容値 (MPa)	応力比
A、B- 主給水配管※1 (CV外)	Ss	一次応力	183	380	0.48	183	380	0.48
		一次+二次応力	318	424	0.75	363	424	0.86
	Sd	一次応力	183 以下	229	0.80 以下	142	229	0.62
		一次+二次応力	318 以下	424	0.75 以下	201	424	0.47
C-主給水配管 (CV外)	Ss	一次応力	191	380	0.50	191	380	0.50
		一次+二次応力	364	424	0.86	364	424	0.86
	Sd	一次応力	191 以下	212	0.90 以下	191 以下	212	0.90 以下
		一次+二次応力	364 以下	424	0.86 以下	364 以下	424	0.86 以下
A-主給水配管 (CV内)	Ss	一次応力	113	380	0.30	113	380	0.30
		一次+二次応力	137	424	0.32	137	424	0.32
	Sd	一次応力	94	212	0.44	93	212	0.44
		一次+二次応力	79	424	0.19	79	424	0.19
B-主給水配管 (CV内)	Ss	一次応力	107	380	0.28	107	380	0.28
		一次+二次応力	89	424	0.21	87	424	0.21
	Sd	一次応力	92	212	0.43	92	212	0.43
		一次+二次応力	53	424	0.13	53	424	0.13
C-主給水配管 (CV内)	Ss	一次応力	118	380	0.31	117	380	0.31
		一次+二次応力	109	424	0.26	108	424	0.25
	Sd	一次応力	96	212	0.45	96	212	0.45
		一次+二次応力	61	424	0.14	60	424	0.14

※1 A系とB系は解析条件が同じであるため評価結果は共通

 評価書記載値